

TRIM ION GRACIA

トリムイオン グラシア 工事説明書

お客様に満足してご使用いただくために、この工事説明書をよくお読みのうえ正しい取り付けをお願い致します。
配管工事はすべて建築基準法、水道法、各市町村の条例規定に準じておこなってください。

※本製品の取り付けには、部品をキッチンに取り付ける作業と配管工事（建設業・管工事業種）が必要です。又電気工事が必要な場合があります。（シンク下にアース端子付きコンセントがない場合）

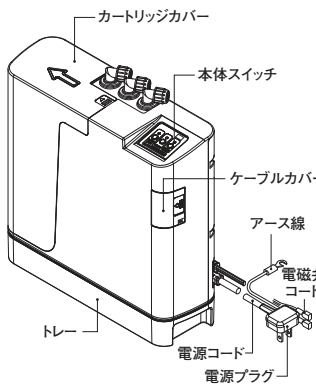
※配管工事は関連する法令・規定に従って法的有資格者が実施しなければなりませんので、管工事業者へこの工事説明書を確実にお渡しいただき配管工事を依頼してください。



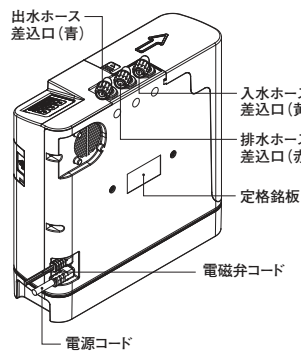
株式会社日本トリム

各部の名称

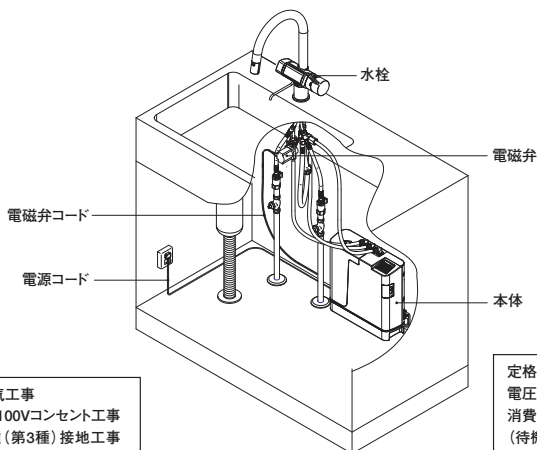
【本体正面】



【本体背面】



施工図



電気工事
AC100Vコンセント工事
D種（第3種）接地工事

定格
電圧:AC100V
消費電力:約270W
(待機時:約0.9W)

警告

給湯温度は60℃より高温で使用しないでください。60℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損してやけどしたり、水漏れの原因となります。

飲用不適な水は使わないでください。体調を損なう原因となります。地下水などを使用する場合は飲用適であることをご確認ください。

湿気の多いところに取り付けしないでください。また、水をかけたり、水中で洗ったりしないでください。感電・火災の原因となります。

アース端子付きコンセントで、アース線を必ず接続してください。アース端子が無い場合は、アース（接地）工事を必ず行ってください。接続しない場合は、感電や落雷による故障の原因となります。

注意

本体は水平な位置になるように設置してください。台の上や傾いたところ等、不安定な場所には設置しないでください。落ちたり、倒れたり、故障やけがの原因となることがあります。

直接日光が当たる場所やコンロ、湯沸し器等、発熱する物の近くには設置しないでください。ケースの変形や故障の原因となることがあります。

本体の上に物を置かないでください。故障又は事故の原因となることがあります。

ホースが折れ曲がったり、ねじれたりしないようにしてください。水漏れの原因になることがあります。

表示された電源電圧（交流100V）以外の電圧では使用しないでください。感電・火災の原因となることがあります。

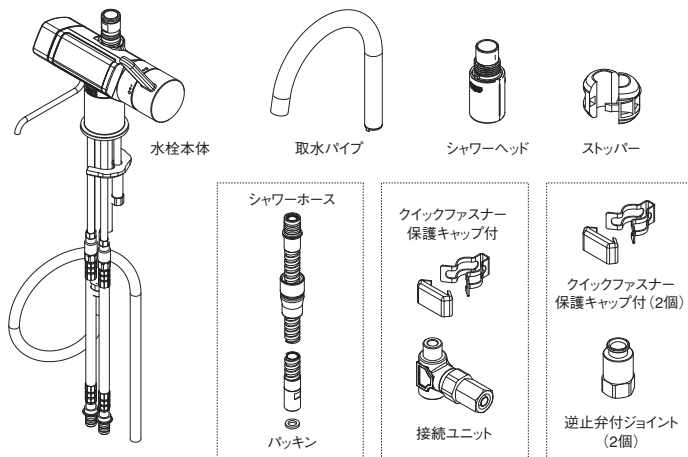
電源コードをステーブル等で固定することはおやめください。電源コードが破損し、感電・火災の原因となることがあります。

電源コードを傷つけたり、束ねたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしないでください。また重いものを載せたり、挟み込んだりすると、電源コードが損傷し、感電・火災の原因となることがあります。

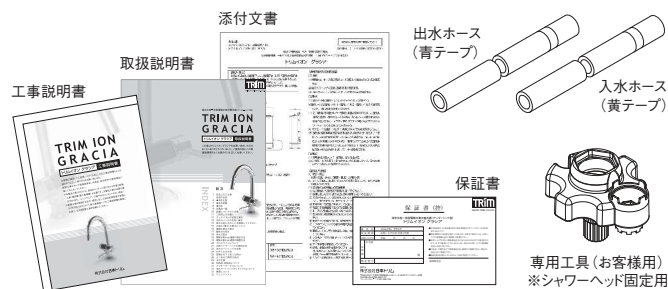
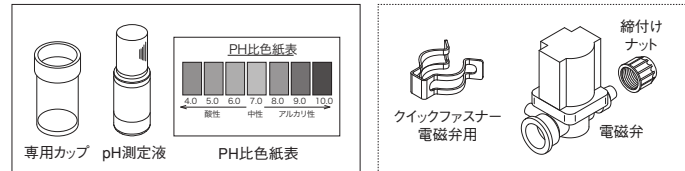
タコ足配線はおやめください。発熱し、感電・火災の原因となることがあります。

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。感電・火災の原因となることがあります。

付属品



pH測定キット



設置作業前の確認

水栓の取り付け位置の確認

必ずお客様とご相談のうえ決めてください。

本体設置位置の確認

水栓の取り付け位置とホースの長さおよび浄水カートリッジ交換が容易な位置を考慮し、必ずお客様とご相談のうえ決めてください。昇降式のキャビネットがあるときは、水栓の可動部が接触しないことを確認し、水栓を設置してください。水栓の取水パイプの首振り角度は115度です。

注意

接続コードの結線を行う際、本体のコネクタ部が確認できる位置に器械を移動させ、作業を行ってください。

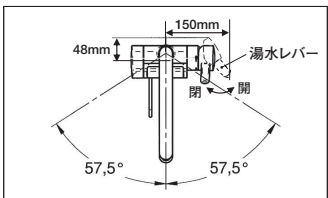
コネクタへの差し込みが不十分だと電磁弁が働かず水が出なくなります。また、動作不良の原因となりますので差し込み後は必ず確認をしてください。

本製品は改造（加工および接合、市販浄水器具の取り付け等）によるトラブルについては、保証の限りではありません。

通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

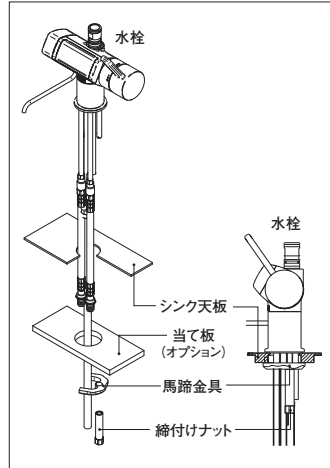
穴を開けるときの注意 ※最小スペース

穴のセンターから後方に48mm、右方向に150mmの動作スペースを開けてください。湯水レバーが開かなくなります。



1 水栓の取り付け

- 水栓取付穴の加工**
シンクの天板にφ38～41の穴をあけてください。（φ40位の穴が最適です）取り付け穴周囲の汚れを取り除いてください。
- 水栓の取付**
水栓から締付ナット、馬蹄金具を取り外します。タッチパネルが正面を向くように水栓をシンクの天板に差し込みます。水栓の固定ボルトに、馬蹄金具、締付ナットの順に組付けて仮固定してください。
- 水栓の位置を確認し締付ナットをソケットレンチ（13mm）などで締付けます。**
※シンク天板が弱い（薄い）場合は当て板（オプション）を取り付けてください。

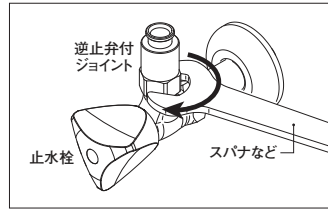


注意

締付ナットの締付けは確実に起こさず。しっかり締付けられていないと、水栓が緩んだり、がたつきが発生し、水漏れの原因となります。

2 止水栓との接続

- 給湯・給水用止水栓に逆止弁付ジョイントを取り付けます。

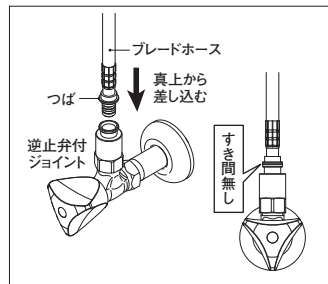


注意

接続は適切な工具（スパナなど）で締付けてください。締付け不足や締付け過ぎますと、水漏れの原因となります。

肉薄の接続管（ニップルなど）には逆止弁付ジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、水漏れの原因となります。

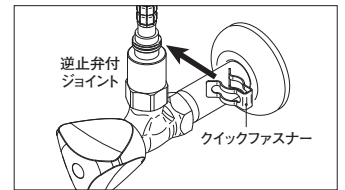
- ブレードホースのつばと逆止弁付ジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。



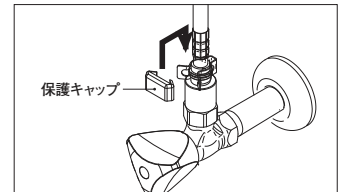
注意

ブレードホースを斜めから差し込むとパッキンが飛び出し切れることがあります。

- クイックファスナー（保護キャップ付）を、ブレードホースと逆止弁付ジョイントのつばにはめます。取り付け後、ブレードホースを上引っ張って外れないことを確認します。



- クイックファスナーに保護キャップをはめます。



注意

湯水のブレードホースは曲げ半径60mm以上を確保してください。ホースが折れると水が出なくなったり、水漏れなどの原因となります。

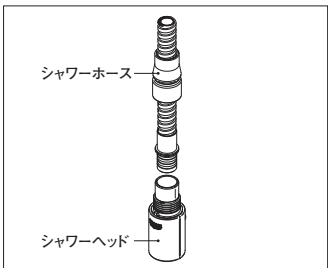
クイックファスナーの角部分に注意してください。手が触れるとケガをする場合があります。

ブレードホースを上引っ張って、抜けないことを確認してください。しっかりはまっていなると水漏れの原因となります。

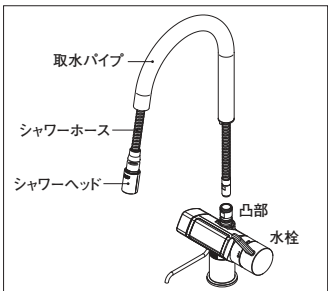
保護キャップはクイックファスナーに確実に取り付けてください。保護キャップはクイックファスナーの抜け止めです。しっかりはまっていなるとクイックファスナーが外れ、水漏れの原因となります。

3 シャワーホースの組み立て

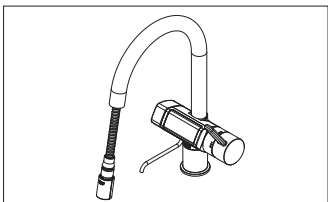
- シャワーホースにシャワーヘッドをねじ込みます。



- シャワーホースを取水パイプに差し込みます。さらに、取水パイプより出たシャワーホースの端を水栓の凸部に差し込みます。

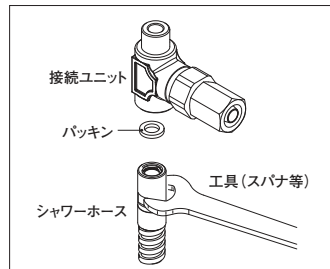


- 取水パイプを水栓凸部と組み合わせます。



4 接続ユニットの取り付け

- 接続ユニットにパッキンを入れ、シャワーホースに接続します。接続ユニット側を手で回し締付けます。
- シャワーホースの工具使用面を工具で固定し、接続ユニット側を増し締めします。



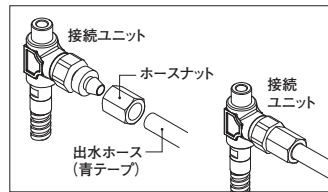
注意

シャワーホース側を回さないでください。ホースがねじれ水漏れの原因となります。

シャワーホースの工具使用面以外には工具をかけないでください。シャワーホースが破損し水漏れの原因となります。

接続ユニットとシャワーホースは確実に締付けてください。締付けが不十分ですと、水漏れの原因となります。

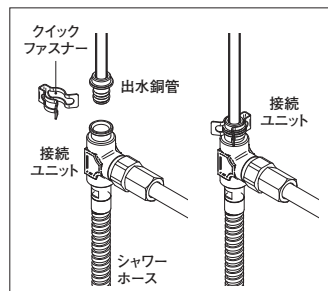
- 接続ユニットからホースナットを外します。ホースナットに出水ホース（青テープ）を差し込みます。ホース継手に出水ホースを奥まで差し込みます。継手の六角部をスパナなどで固定し、ホースナットを継手の根元に突き当たるまで締付けてください。



注意

工具を必ず使用し、確実に締付けてください。締付けが不十分ですと、水漏れの原因となります。

- 接続ユニットを水栓の出水銅管に差し込みクイックファスナーで固定してください。

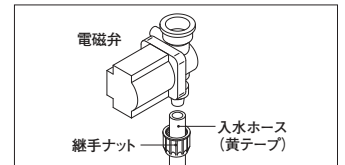


注意

接続ユニットを真下に引っ張って外れないことを確認してください。確実に接続されていないと、水漏れの原因となります。

5 電磁弁・入水ホースの接続

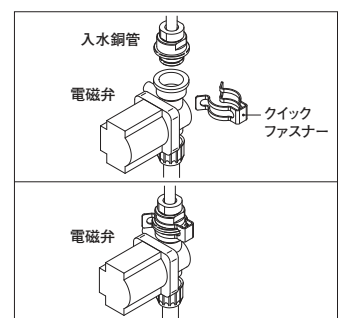
- 電磁弁から継手ナットを外します。入水ホースに継手ナットを差し込みます。電磁弁の継手に入水ホース（黄テープ）を接続します。継手に入水ホースを奥まで差し込みます。継手ナットで締付けてください。



注意

締付けが不十分ですと、水漏れの原因となります。

- 入水銅管継手のツバと電磁弁継手のツバが隙間なく合うまで差し込んでください。クイックファスナーを入水銅管のツバと電磁弁のツバにはめます。ホースを引っ張って外れないことを確認します。

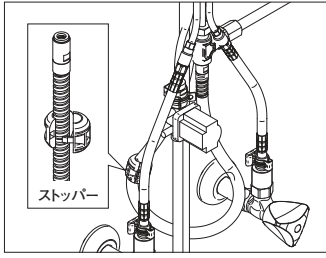


注意

取り付けが不十分ですと、水漏れの原因となります。

6 ストッパーの取り付け

シャワーホースにストッパーを取り付けます。シャワーヘッドの引き出し長さを約300mmに規制する位置に取り付けます。

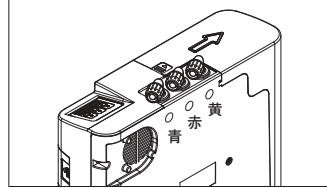
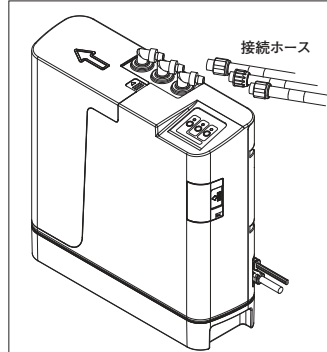


注意

シャワーホースが他の配管部品と干渉しないよう取り付けの際、ご確認ください。シャワーホースが引き出せなくなったり、収納できなくなります。また、破損し水漏れの原因となります。

7 整水器とホースの接続

水栓に取付けられた3本のホースを整水器本体の差込口に接続します。接続は、差込口から継手ナットを外し、外した継手ナットをホースに差し込みます。本体背面の色別シールの色(青・赤・黄)とホースに巻かれたテープ色(青・赤・黄)を合わせて、各ホースを差込口に奥まで差し込みます。継手ナットを十分締付けてください。

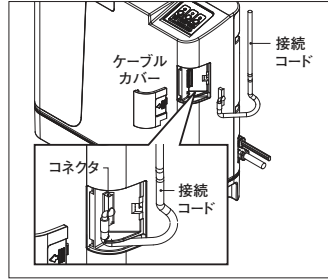


注意

ホースを引っ張って外れないことを確認します。水漏れの原因になる恐れがあります。

8 接続コードの結線

① 水栓の下から出ている接続コードのコネクタを本体に接続します。本体右側のケーブルカバーを外し接続コードのコネクタを接続します。ケーブルカバーで蓋をします。

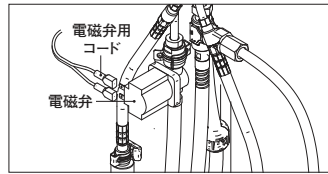


注意

コネクタピンに曲がりがないか確認し、確実に差し込んでください。水が出なくなったり、動作不良の原因となります。

② 本体背面から出ている電磁弁コードを電磁弁に接続します。

極性	電磁弁端子	コードの色
プラス	白マーク	白
マイナス	-	黒



注意

コードの接続は確実に行ってください。電磁弁の接続(プラス/マイナス)を間違えた場合は、水が出ません。

10 水漏れの確認

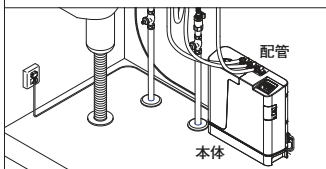
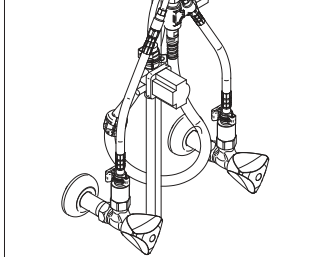
- ① 給湯・給水用止水栓をあげてください。
- ② 水栓の湯水レバーを上げて水道水を5分以上上流します。出てくる水に、汚れやにおいなどがなくなったことを確認し、湯水レバーを閉じます。給湯・給水用止水栓の接続部に水漏れがないか確認してください。再度水栓の湯水レバーを上げて水道水を流します。通水状態で、取水パイプ先端のシャワーヘッド背面のボタンを押してシャワーへの切り替わりを確認します。

注意

必ず湯水の方から確認してください。配管工事のごみ等が、整水器の浄水カートリッジに入りカートリッジ寿命を低下させることがあります。

- ③ 水栓の整水ハンドルを回して通水(5分以上)し、水栓及び本体の各接続部に、水漏れがないか確認してください。

配管漏れ確認

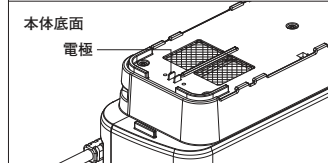
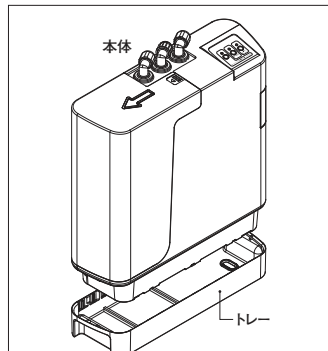


11 混合水栓動作の確認

- ① タッチパネルにタッチし照光を確認してください。タッチパネルの水素水スイッチを押し、「水素水」が点灯していることを確認の後、水栓の整水ハンドルを回し本体に給水してください。
- ② 付属のpH測定液を専用カップに1滴落とし、そこへ生成された電解水素水を専用カップの目盛りまで入れてください。
- ③ 電解水素水のpH確認は、付属のpH比色紙表と比べて、出てくる水がアルカリ性であることを確認してください。アルカリ性にならない場合は水栓と本体の接続を再確認してください。
- ④ 以上の確認が済みましたら、水栓の整水ハンドルを回して給水を止めてください。何もしないで5秒間経過するとランプが自動的に消灯します。

12 電磁弁の動作確認

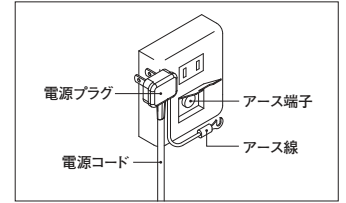
- 本体からトレーを外し底面にある電極の相互間をショート(10秒以上)します。(マイナスドライバー等)タッチパネルに「水モレ」表示とブザーが鳴り電磁弁が閉じます。整水ハンドルを開き水の出ないことを確認します。
- リセットするには、電源プラグをコンセントから外して約1分待って再度コンセントに電源プラグを差してください。ブザーが止まりタッチパネルから「水モレ」表示が消えていることを確認します。



- 再度ハンドルを開き水の出ることを確認します。

9 アース線・電源コードの接続

電源プラグに付いているアース線をコンセントのアース端子に必ず接続してください。



電源プラグをコンセントに接続します。

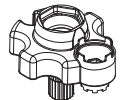
注意

アース端子付きコンセントで、アース線を必ず接続してください。アース端子が無い場合は、アース(接地)工事を必ず行ってください。接続しない場合は、感電や落雷による故障の原因となることがあります。

最後に

専用工具(お客様用)、pH測定キット、取扱説明書、添付文書、工事説明書、保証書をお客様に渡してください。

専用工具(お客様用)



pH測定キット

